

減れば、家計が楽になると思  
ったからなのです。

そして私は16歳のときに、  
初めて人を撃つ戦場に行きま  
した。そこは、四方八方で血  
まみれになった人たちがた  
うちまわり、だれしも一秒先  
の命すらあるかどうかかわら  
ない状況でした。遠くで大砲  
や鉄砲の音が聞こえてくると、  
怖くて足が震えました。私は  
そのような戦場に30回以上行  
きましたが、何回行っても恐  
怖で足が震えました。それで  
も銃弾が間近まで飛んでくる  
ようになると、あきらめがつ  
いて、足の震えはとまりまし  
た。

竹平—どんな人にも家族や友人  
がいて、だれかにとつて大切  
な人なので、死んでいい人な  
んていないと思います。それ  
なのに、戦争によつて命を奪  
われてしまうのはよくないこ  
とだと思えます。



橋口 琴美さん

橋口—人の命を奪うことがよく  
ないことだと皆さん理解して  
くれていますね。命は国籍に  
関係なく、どんな人にとつて  
もかけがえのないものだと心

にとめておいてください。  
では、9月18日が何の日か  
知っていますか。

高校生一同！。(沈黙)

橋口—この日は、満州事変の起  
きた日です。中国では小さな  
な子どもでも知っている日で  
すが、日本人は、ほとんど知  
りません。戦争では、日本の  
兵隊も一つの街を占領するた  
めに、小さな子どもまで殺し  
てきた事実があります。戦争  
を学ぶときには、日本がされ  
たことだけでなく、したこと  
も含めて、両方から物事を見  
て、日本の立場を覚えてほし  
いと思います。それが戦争の  
事実なのです。

皆さんは自決という言葉を知  
っていますか。当時、日本  
人は戦場で、もうだめだ、と  
思うとみずから命を絶ちまし  
た。それを自決と言います。  
日本人は、戦場に行つて死ぬ  
ことは名誉であり、絶対に捕  
虜になつてはいけなさと教え  
られていたのです。

山崎—同じ教えにより、沖縄戦  
でも、親が子どもを殺したり、  
夫が妻を殺したりと、たくさ  
んの悲劇がありました。

渡邊(安)—当時は、捕虜になる  
くらいなら死になさい、とい  
う考え方が正しかったのかも  
しれませんが、今の私たちか  
らすると、個人の命が大切に

されていらないようでひどいと  
感じました。

## 教科書だけではわからなかったこと

### 戦争の事実を学んで

渡邊(弦)—教科書や授業では、  
「戦争」という出来事しか習  
わなかつたけれど、僕たちが  
知っておくべきことは、なぜ  
戦争が起きてしまったのか、  
そしてその戦争によつて、国  
内外の人がどのような生活を  
強いられたのか、という事実  
なのだということがわかりま  
した。



渡邊 弦太さん

## 当たり前前の日常を送ることができる幸せ

### 平和を感じる価値観

片又—戦争体験を聞く前は、好



渡邊 安理さん

竹平—戦場以外で、たくさん  
の人が飢え死にした事実は知  
りませんでした。食べられなく  
て苦しんで死ぬことはつらい  
し、戦争とは無縁な小さな子  
どもが犠牲になつていたりとい  
うことも、教科書だけではわ  
かりませんでした。なぜ戦争  
中では、そんなに人を殺すこ  
とができたのでしょうか。

山崎—戦争中だから平気で人を  
殺すことができたと考えてし  
まうかもしれませんが、兵士  
になるための訓練を受けるこ  
とで人は人を平気で殺すこと  
ができるようになることもあ  
ります。感情が麻痺して、戦  
争ロボットになつてしまうの  
です。

きなことができてみんなと楽  
しく過ごせることが幸せだと  
思っていました。でも、今は  
命を落とす不安がないという

だけで幸せを感じられます。



片又 千尋さん

嶋岡—餓死する心配もなく、  
食べたいときに食べたい物を  
食べることができ、こうして  
当たり前前の日常を送ることが  
できる毎日がどれだけ幸せな  
のかを実感しました。



嶋岡 将太さん

山崎—皆さんが平和だと感じて  
いる状態を、どうしたら維持  
することができるのかを考え  
てみてください。平和な社会  
をつくるためには、自分たち  
がどのような社会に生きてい  
るのかを知る必要があります。  
だからこそ戦争体験者の話を  
通して、過去に日本がどんな  
ことをしたのか、されたのか  
という正しい事実を知ること  
や、みずからのアンテナを高  
く持つて、世界中の情報を得  
ることで、正しく判断できる  
力を養つてほしいと思います。  
正しく判断する力は、皆さん  
が大人になつたときに戦争を

防ぐ大きな力になるかもしれないよ。

橋口―兵隊はロボットと同じで、自分の意志で動くことはできませんでした。でも皆さんは違います。これからもし戦争が起きそうになっても、自分

## 命を大切にしたい

### だから戦争はしたくない

#### 私たちができること

橋口―アンケートの質問にもありましたが、皆さんはこれから平和のためにどんなことをしようと思いますか。

齋藤―たくさんの人が死に、自分の年齢でも兵士にならなければならぬ戦争は、絶対に繰り返したくないと思いま



で善悪の判断をして嫌なもの嫌だと言ってください。そうしないと、また戦争は繰り返されてしまいます。それだけは絶対に避けたいことなのです。

た。僕は、将来自分のことだけを考えて争いの原因をつくるような人間にならないようにしたいです。

嶋岡―きょうはふだん聞くことができない貴重な話を聞くことができ、勉強になりました。僕は、時々ちよつとしたことで腹が立ってしまうことがあるので、そういつた一時の感情に流されない穏やかな人間になろうと思います。

渡邊(弦)―今まで戦争はゲームの中の出来事でしたが、きょうの話聞いて、今までよりも戦争の様子が実感できました。殺したり殺されたりする戦争はとても怖いし、絶対にしてはいけないいつも心にとめておこうと思いました。渡邊(安)―戦争をしてたくさんの人を殺すと、自分の国では英雄になれるかもしれないけど、それはすぐ最低なこと



富士見大通りにある核兵器廃絶平和宣言塔

だと思いません。私は日常で、軽々しく「殺す」とか「死ぬ」とか口にしていました。もうした命にかかわる言葉を軽々しく使わないようにしようと思えます。

竹平―戦争体験者の話は怖いところもありましたが、その事実をしっかりと受けとめて、「戦争をしない」と勇気を持つて人に伝えられるようになってほしいです。

片又―人の命を簡単に奪ってしまう戦争はやはりいけないことだと思います。将来子どもができたら、きょう聞いた戦争のことを伝えていきたいと思いました。

山崎―絶対に戦争をしてはいけない、という皆さんの話を聞いて、とても心強く感じました。

橋口―皆さん、戦争に反対だと言ってくれましたね。すごく立派なことだと思います。言葉にして人に伝えることは、とても勇気のあることですが、「私は戦争に反対です」と言える大人になってください。

#### 戦争の事実を共有するために

戦後生まれの私が戦争の事実を伝えるようになったきっかけは、広島や長崎、特に沖縄の戦争の現場を訪れたときに、まだまだ戦争の事実が知られていないことに衝撃を受けたからです。今は沖縄をはじめ各地の戦跡をめぐる、戦争体験者に直接話を聞き、戦争の事実をたくさんの人に伝えたいと思っています。

正確な情報を共有するためにも、戦争体験者の話が世代を越えてこれからも伝わっていくといいですね。



核兵器廃絶平和富士市民の会 山崎 ひるみさん (川尻)

#### 命ある限り伝えたい

私はことし85歳になりました。戦争体験者は高齢化が進み、次々にこの世を去っていきます。どうやってこの戦争体験を途切れることなく、次世代に引き継いでいけるのか、ということが私の一番の悩みなのです。私は、命ある限り戦争体験を語り継いでいきたいと思っています。

たくさんの人が、平和について考えるようになれば人や地域のために助け合う、争いのない世の中になるのではないのでしょうか。



「富士の語り部」の会 橋口 傑さん (今泉)

大切なことは知識や情報、数字や活字だけではなく、感情がなければ伝わりません。だからこそ、戦争体験者の話は、たくさんの人の心に響き「戦争を繰り返してはいけない」という強い思いを残していきます。それは現在から未来へ途絶えることなく続く伝言なのです。